

JB-19,20型 ベローズ形伸縮管継手

製品記号 JB19-N (単式)
JB20-N (複式)

外圧二重シール構造

外圧二重シール構造を採用しているため外部漏洩に対して安全性が高く、しかも伸縮能力の大きい伸縮管継手です。

温度変化によって生じる管の軸方向の伸縮を吸収します。

■特長

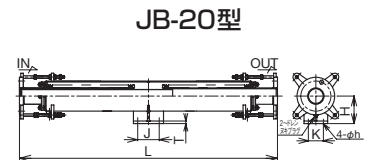
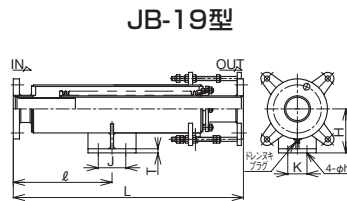
- 伸縮量が大きい。
- 万一ベローズが破損してもグラウンド部でシールするため応急処置ができます。

■仕様

型式(形式)	JB-19型(単式)	JB-20型(複式)
製品記号	JB19-N	JB20-N
呼び径	32~300	
適用流体	蒸気・空気・不活性ガス・水・温水・油	
流体温度	220℃以下	
最高使用圧力	1.0MPa	
端接続	JIS 10K FFフランジ注	
材質	フランジ・外筒(圧延鋼材)、内筒・ベローズ(SUS316L)、グラウンドパッキン(ノンアスベスト)	
耐圧性能	水圧にて1.5MPa	

注. ASME (ANSI) クラス150フランジはお問い合わせください。

■構造



注1. 配管する時はドレンヌキを下にしてください。
注2. シーズンオフ中はドレンヌキのプラグからドレンを排出してください。

■取付け上のポイント

1. 流れ方向が銘板の矢印の方向になるように取り付けてください。
2. ベローズにねじり応力をかけないように配管してください。
3. 面間固定用のナットは、配管後所定の位置に移動してください。

■寸法表

呼び径	JB-19型(単式)					JB-20型(複式)					(mm)				
	L	l	伸縮量		質量(kg)	L	伸縮量		質量(kg)	H	J	K	T	h	
			伸び	縮み			伸び	縮み							
32	650	277.5	10	60	14	1100	20	120	22	88	90	60	9	14	
40	650	277.5	10	60	16	1100	20	120	25	88	90	60	9	14	
50	650	277.5	10	60	21	1100	20	120	31	128	100	70	9	22	
65	670	287.5	10	60	26	1200	20	120	43	128	100	70	12	22	
80	700	297.5	10	60	31	1250	20	120	49	138	100	70	12	22	
100	700	295	10	60	42	1250	20	120	65	169	135	95	16	22	
125	700	307.5	10	60	60	1250	20	120	92	190	155	105	16	22	
150	700	296	10	60	89	1250	20	120	139	245	175	115	16	22	
200	750	323	10	60	120	1300	20	120	181	265	195	135	16	25	
250	770	345.5	10	60	156	1350	20	120	240	289	210	150	16	25	
300	770	342.5	10	60	186	1400	20	120	292	300	225	165	19	28	

フランジ規格 JIS 10K FF

■主アンカに加わる軸方向荷重一覧表

項目	呼び径	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300
ベローズ有効面積	Ae (mm ²)	3167	3167	5153	6705	11366	17554	24000	42822	62016	90800	110150
ばね定数	K (N/mm)	22	22	52	60	175	195	255	417	502	758.5	863
最高使用圧力1.0MPaによる力	Fp (N)	3167	3167	5153	6705	11366	17554	24000	42822	62016	90800	110150
最大縮み量60mmによる力	Fe (N)	1320	1320	3120	3600	10500	11700	15300	25020	30120	45510	51780
最高使用圧力時の合力	Fm = Fp + Fe (N)	4487	4487	8273	10305	21866	29254	39300	67842	92136	136310	161930
水圧試験1.5MPaによる力	(N)	4750	4750	7730	10060	17050	26330	36000	64230	93020	136200	165220

資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

■ベローズ材質SUS316Lについて

JIS B 2352ベローズ形伸縮管継手の規格では、ベローズの材料にSUS304、SUS304L、SUS316、SUS316Lなどを挙げています。弊社においては、ベローズ材質の生命ともいえる耐食耐久性を重視し、

ベローズを含む全接液部材料 (JB-19型、JB-20型は除く) にSUS316Lを使用しています。このSUS316Lの材質は、SUS304とは比較するまでもなくSUS304Lと同等以上の性質を有するものです。参考まで

にSUS316LとSUS304Lの比較表を以下に記載します。

また、JIS B 2352-附属書JAでは、同等の海外規格の材料を用いてもよいと規定されております。

■SUS316LとSUS304Lの比較表

表1. 化学成分 (%)

種類	炭素 C	シリコン Si	マンガン Mn	リン P	イオウ S	ニッケル Ni	クロム Cr	モリブデン Mo
SUS316L	0.030以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	12.00~15.00	16.00~18.00	2.00~3.00
SUS304L	0.030以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	9.00~13.00	18.00~20.00	—

表2. 機械的性質

種類	引張試験			硬さ試験		
	耐力 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)	伸び (%)	HB	HRB	HV
SUS316L	175以上	480以上	40以上	187以下	90以下	200以下
SUS304L	175以上	480以上	40以上	187以下	90以下	200以下

表3. 耐食性

種類	全面腐食	粒界腐食	応力腐食割れ	孔食	隙間腐食
SUS316L	○	○	◎	◎	◎
SUS304L	○	○	○	○	○

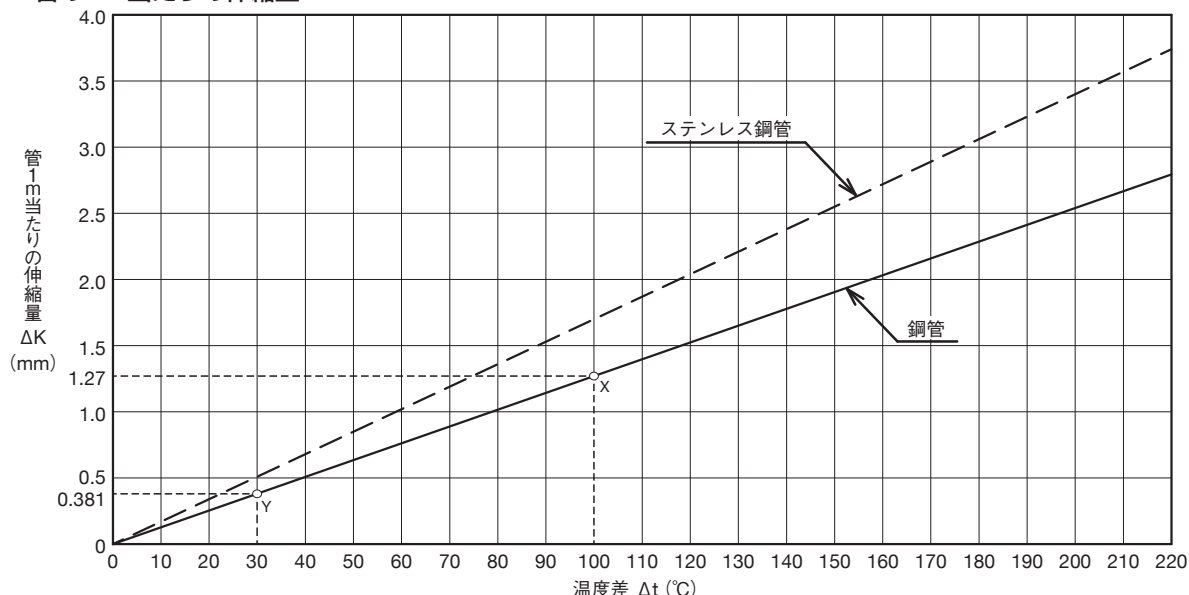
注. ○：優れている ◎：より優れている

■JIS B 2352-2013 附属書JA (表JA.1 抜すい)

表JA.1 - 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯

JIS G 4305	JISに対応する国際規格、地域規格及び外国規格		
	ISO 9328-5	EN 10088-2	ASME SA-240
SUS304L	X2CrNi1810	1.4306	Type 304L
SUS316L	X2CrNiMo1712	1.4404	Type 316L

■図1. 管の1m当たりの伸縮量



■伸縮管継手の選定

配管の材質、温度変化による伸縮量により、伸縮管継手の型式、本数を決定します。

●計算式

$$n = \frac{\Delta \ell}{\delta}$$

$$\Delta \ell = \beta \times \Delta t \times \ell$$

n : 継手本数 本
 δ : 継手の最大伸縮長さ mm
 Δℓ : 管の伸縮量 mm
 β : 管の線膨張係数 mm/m/°C

鋼管 12.7×10^{-3}
 ステンレス鋼管 17.0×10^{-3}
 Δt : 温度差 °C
 ℓ : 管の長さ m

●選定例

管の長さ (ℓ) : 35m、最高使用温度 (t₁) : 120°C
 最低気温 (t₂) : -10°C、取付時の気温 (t₃) : 20°C
 上記条件における伸縮管継手の型式及び本数 (n) を求めます。
 ただし、管は鋼管とし、継手は基準面間寸法で選定します。

資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

注意 設置時や運転に関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

手順1. 管の伸縮量を求めます。

管の伸び側の温度差 $\Delta t_1 = t_1 - t_3 = 120 - 20 = 100^\circ\text{C}$
 管の縮み側の温度差 $\Delta t_2 = t_3 - t_2 = 20 - (-10) = 30^\circ\text{C}$

図1. X点より

$$1\text{m当りの管の伸び} \quad \Delta k_1 = 1.27\text{mm}$$

図1. Y点より

$$1\text{m当りの管の縮み} \quad \Delta k_2 = 0.381\text{mm}$$

従って、

$$35\text{mの管の伸び} \quad \Delta \ell_1 = \Delta k_1 \times \ell$$

$$= 1.27 \times 35 = 44.45\text{mm}$$

$$\text{管の縮み} \quad \Delta \ell_2 = \Delta k_2 \times \ell$$

$$= 0.381 \times 35 = 13.34\text{mm}$$

手順2. 継手の種類を決定し本数を求めます。

JIS準拠品としてJB-13,21型(単式)を選定する場合、

$$\text{管の伸び側} (\delta = 25\text{mm}) \quad n = \frac{\Delta \ell_1}{\delta} = \frac{44.45}{25} = 1.778\text{本}$$

$$\text{管の縮み側} (\delta = 10\text{mm}) \quad n = \frac{\Delta \ell_2}{\delta} = \frac{13.34}{10} = 1.334\text{本}$$

管の伸び側、縮み側のうち大きい方の本数を採用しますから、2本となります。

JIS準拠品としてJB-14,22型(複式)を選定する場合、

$$\text{管の伸び側} (\delta = 50\text{mm}) \quad n = \frac{\Delta \ell_1}{\delta} = \frac{44.45}{50} = 0.889\text{本}$$

$$\text{管の縮み側} (\delta = 20\text{mm}) \quad n = \frac{\Delta \ell_2}{\delta} = \frac{13.34}{20} = 0.667\text{本}$$

管の伸び側、縮み側のうち大きい方の本数を採用しますから、1本となります。

その他の型式選定の場合でも同じ手順で求めます。

■取付け上のポイント

1. 流れ方向が銘板の矢印の方向になるように取り付けてください。
2. ベローズにねじり応力をかけないように取り付けてください。
3. 面間固定用下記部品は、配管後取り外してください。

JB-13, 14, 17, 18型はナット及びザガネ

JB-21~24型はセットボルト

■取扱い上のポイント

1. アンカの設置

伸縮管継手を使用するときは、十分な強度のアンカ(固定点)が必要です。このアンカの設置場所とその種類は次のとおりです。

①主アンカ

- 閉止板を設けた直線配管の端末部
- 流れ方向が変わる曲管部
- レジャーサで配管径が異なる二つの伸縮管継手の間
- 二つの伸縮管継手の間の配管部にバルブを設ける箇所
- 拘束のない伸縮管継手を含む分岐配管の入口部

②中間アンカ

- 主アンカの上に伸縮管継手を2個以上使用する場合には、それぞれの伸縮管継手の中間部
- 複式伸縮管継手のアンカベース(取付脚)部

2. ガイド、配管自重支持の設置

①ガイド

伸縮管継手が正しく伸縮するためには、伸縮管継手と管との芯合せ、及び軸方向の動きに要する力を無理なくアンカに伝えるためにガイドが必要です。それぞれのガイド位置は次の間隔で設けてください。

配管の芯ずれは、呼び径125以下は $\pm 2\text{mm}$ 以内、呼び径150以上は $\pm 3\text{mm}$ 以内また、配管の平行度は $\pm 2^\circ$ 以内に抑えてください。

L1: 伸縮管継手から最初のNo.1ガイドまでの間隔

L2: No.1ガイドからNo.2ガイドまでの間隔

L3: No.2ガイドから中間ガイドまでの間隔

直管部主アンカに加わる荷重Fm(N)

$$F_m = F_p + F_e$$

$$F_p = A_e \times P$$

$$F_e = K \times S$$

曲管部主アンカに加わる荷重Fb(N)

$$F_b = 2F_m \sin \frac{\theta}{2} + F_c$$

$$F_c = \left(\frac{2A\rho V^2}{g} \sin \frac{\theta}{2} \right) \times 98.0665$$

中間アンカに加わる荷重Fi(N)

$$F_i = F_e$$

Fp: 内圧による軸方向荷重 N

Fe: 所定圧縮による荷重 N

Ae: ベローズ有効面積 mm²

P: 使用圧力 MPa

K: ベローズばね定数 N/mm

S: 伸縮量 mm

θ: 配管の曲がり角度

(図5、配管例略図参照)

Fc: 流体の遠心力による荷重N

A: 管の断面積 cm²

ρ: 流体密度 g/cm³

V: 流速 m/s

g: 重力加速度 980cm/s²

図2-1. ガイドの取付間隔

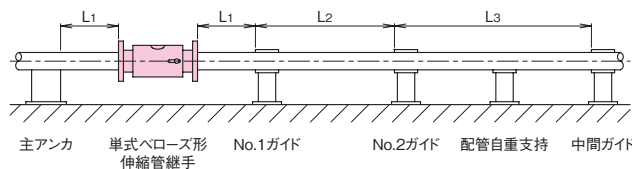
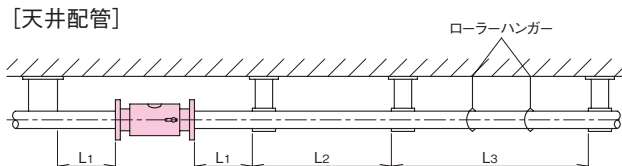


図2-2. 天井配管の例



注. ローラーハンガーのみの設置では、配管が挫屈を起こします。必ずガイドを設置してください。

資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

注意 設置時や運転に関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

各ガイドの最大取付間隔は次式で求めてください。また、中間ガイド間隔 L_3 (最大値)は計算で求める代わりに、図3から求めることもできます。

$$L_1 \leq 4D$$

$$L_2 \leq 14D$$

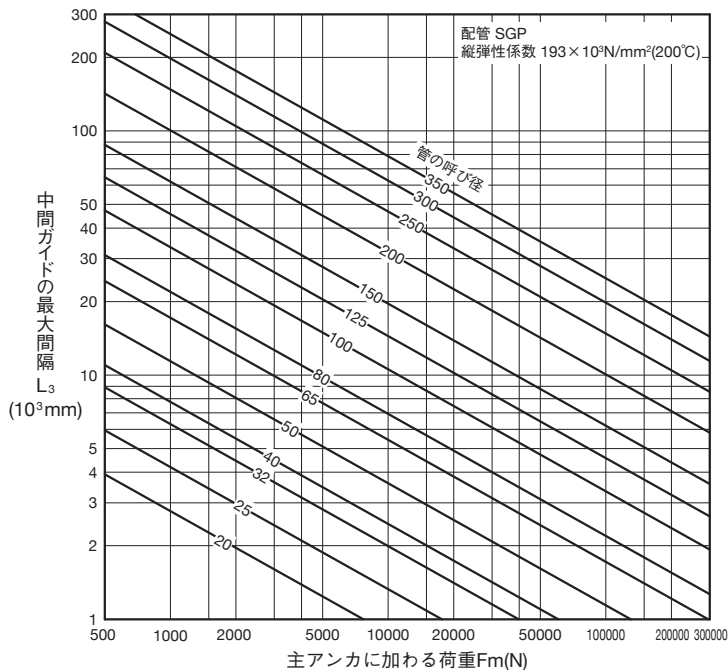
$$L_3 \leq 1.57 \sqrt{\frac{EI}{F_m}} \quad I = \frac{\pi}{64} (D^4 - d^4)$$

- L_1, L_2, L_3 : ガイド間隔(最大値) mm
 D : 管の外径 mm
 d : 管の内径 mm
 E : 管材料の設計温度における縦弾性係数 N/mm²
 鋼管200°C 193 × 10³N/mm²
 ステンレス鋼管200°C 182 × 10³N/mm²
 I : 管の断面二次モーメント mm⁴
 F_m : 主アンカに加わる荷重 N

②配管自重支持

配管の自重、流体の質量などによって生じる管の曲がりや防止するためにローラーサポート、又はローラーハンガーガイドが必要です。

図3. 中間ガイドの最大間隔



注. 配管がSTPGの場合は300頁図7をご参照ください。

図5. 配管例略図

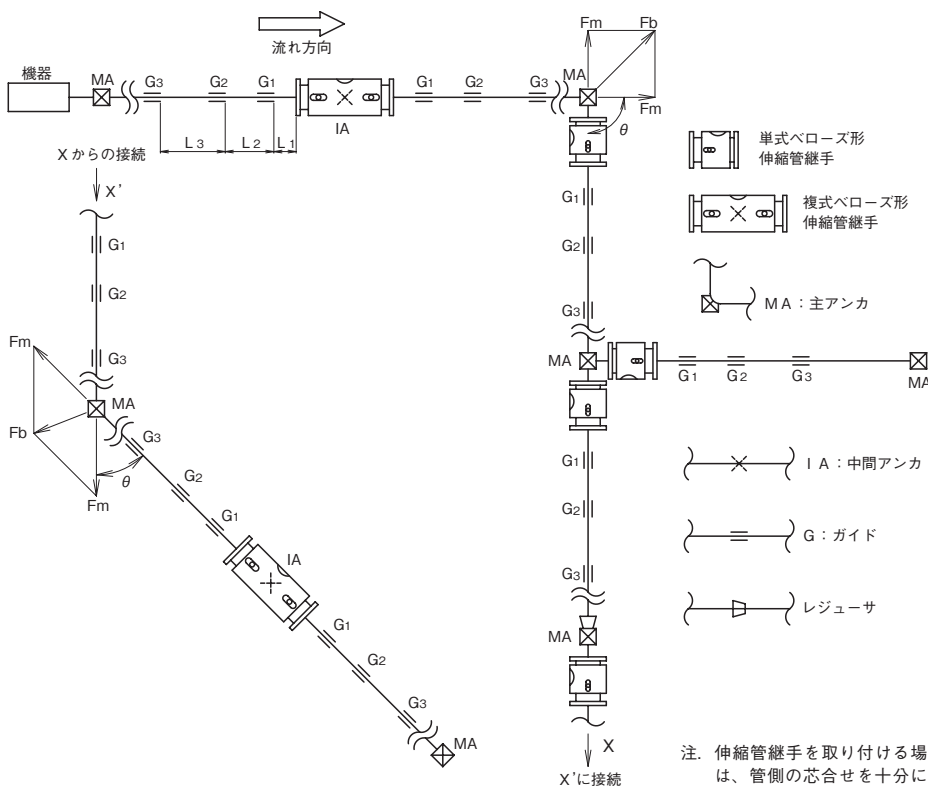
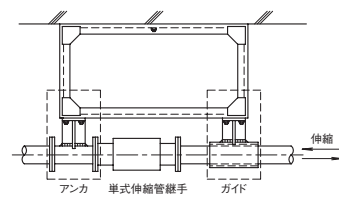


図4. アンカ、ガイド(例)



他のガイド(例)

